The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	呉山社と吉田先生
Author(s)	酒井, 全太郎
Citation	懐徳. 1975, 45, p. 48-48
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90530
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

吳山社と吉田先生

酒井全太郎

懐德堂教授吉田先生は謹嚴篤學の儒士であった。常に出勤されると素讀生に素讀を敎へ週何回かの講義をされて、遲く歸宅される習慣であった。當時は豐後町に堂があったので、そこから徒歩で電車に乘られるために聽講生數人と共にして本町の電車停留場まで、何かと種々の話をききつつ別れたのであった。北京より歸朝された後も、引きつづき御出講下さって、論語や、水滸傳などの講義をされたのであるが、これは主に白話で原文を讀まれたのであった、これは新機軸であった樣に思った。

その間先生は主宰者となって吳山社を始められた。昭和五年五月二十一日池田の大廣寺退老堂に盟友を結集して吳山社の第一回の雅會が開かれた。その以後毎月一回の集會を持つに至った。そして會の世話は先生獨りが專ら當られて居った。因みに初めの結集時の雅友は中井黃裳・岡山雲介・西田樗堂・林田炭翁・吉田北山の五士であった。その雅會の間にこれに參會した詩盟は凡そ三十餘名を名簿に記されて居る。この長い間に含山社謄錄を編纂して頒布の勞をとって下さった。

そして吳山社の名は江戸時代に田中桐江が池田に吳江社を創って池田の文化に資したのに因むのであった。この拙文は吉田晉氏の記事中吳山社の項に應じて記したものである。

又含山社の詩盟は凡そ、次の諸士であった。

高橋虛庵、小原蘇谷、弘末楚山、中尾抑處、酒井鳴谷、藤本碩石、湯川鳥山、佐野碧玲、春原玉英、松田臥雲、白井文溪、林田瓜牛、森　針渠、山本楢信、多田岑影、高橋策山、益滿素堂、末永夕秀、丸山朱樓、田中翠江、山崎春崗、平田二松である。

岡野廉平翁を送る

木村英一

岡野廉平氏は、大正十一年一月一日に懐德堂記念會の幹事に就任されてより、今年に至るまで實に五十三年の長きに亘って勤續され、昭和三十七年四月一日以來は評議員をも兼ねておられた。本年八十歳の高齡に達せられたのを機に、五月末日を以って一切の公職を辭され、鄕里に退休された。思えばこの半世紀の間、堂に出入した